

2日目

沈墮の滝公園特別会場

サミット会議「個性あるまちづくりへの挑戦」

司会（後藤大野町企画室長）

サミット会議にご出席の皆様にご案内を申し上げます。

本会場にご出席の皆様が到着をされましたときに、獅子や白熊や棒術をご紹介させていただきましたが、これは第5回「雪舟サミット」を大野町が開催をするという運びになりましたところ、南部地区の皆様方が、第5回「雪舟サミット」のご参加者の歓迎と、これを契機に第1回の「雪舟まつり」をやろうということで、集まって頂いた地区の皆さんでございます。ご紹介させて頂きました。それでは、皆さん、おはようございます。昨日は第5回「雪舟サミット」の第1日目の各行事にご参加をいただきまして、誠にありがとうございました。お疲れのことと存じますが、本日も引き続きどうぞよろしくお願い申し上げます。

大変申し遅れましたが、私、本日の司会をさせていただきます大野町企画室長の後藤でございます。どうぞよろしくお願いいたします。（拍手）

交流会議には入ります前に、本日の日程につきまして少しご紹介をさせていただきます。これから交流会議をお願いいたしますが、この会議が終了いたしましたら、この場で記念撮影をお願いいたします。記念撮影が終わりましたら、先ほどバスを降りられましたところでバスが待っておりますので、大変恐縮ですが、降りたところからまた乗車を頂きたいと思っております。

雪舟ゆかりの地視察という日程になっておりますが、私どもの町にはそんなに自慢をしてお案内できる場所もございませんので、本町に隣接をいたします朝地町に、日本の近代彫刻家の朝倉文夫先生を顕彰いたしました記念館がございます。こちらを先にご案内して、続きまして昨日お話が出ておりました、大野町の雪舟ゆかりの地であろうかといわれております、勝光寺をご案内させていただきたいと思っております。その後、時間が少々下がりますけれども、午後1時頃には昼食をとっていただき、午後2時頃には閉会をしたいと思います。JRをご利用をいただきます方につきましては、午後3時頃までに大分駅に到着するように配車をしておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、ご案内をいたしております雪舟ゆかりの地自治体のトップによりまして交流会議をはじめさせていただきますと存じます。交流会議の進行役は、開催地の大野町長をお願いいたします。それでは大野町長、よろしくお願い致します。

大分県大野町・三浦寛喜町長

皆さん、おはようございます。本当にお疲れさまでした。今日もよろしくお願い申し上げます。地元町長の三浦でございます。それでは、ただ今から交流会議を開かせていただ

きます。お手元にスケジュールがあるかと思いますが、予定されている時間は10時30分までの1時間と25分でございます。時間的な制約もございますが、率直なご意見をお伺いしたいと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。

お手元の資料に書いてございますように、今回の交流会議のテーマは「個性あるまちづくりへの挑戦」というようになっております。それぞれ取り組みをなされておりますまちづくりにつきまして、雪舟に関連したもの、あるいはそれ以外のものといったようなものがあるかと存じます。全部をまとめて総論的なご発表をいただければと考えております。従いまして、まず最初にそれぞれの市や町で取り組んでおられますまちづくりを、今後の展望も含めて5分ないしは6分間程度でご報告いただきたいと思います。

今回はアイウエオ順とさせていただきます。最初に昨年、第4回のサミットでお世話をいただきました川崎町さんからお願いを申し上げます。それではよろしくお願い致します。

福岡県川崎町・原口栄弘町長代理 収入役 手嶋恵二氏

皆さん、おはようございます。町長が出席するのが本来でございますが、どうしても公務の都合で出席ができません。どうかお許しをいただきたいと存じます。昨年第4回の「雪舟サミット」におきましては、皆さんお揃いでご出席をいただきまして、誠にありがとうございました。盛會に催すことが出来ましたことを、重ねてお礼を申し上げる次第であります。

それでは「個性あるまちづくりへの挑戦」について発表をさせていただきます。川崎町は昨日もご案内をいたしましたように、戦後の日本経済の復興に大きく貢献をいたしました、かつての筑豊炭田の一角にあります石炭産業で栄えました町であります。昭和30年代からエネルギー革命によりまして、それまでの基幹産業でありました石炭産業は壊滅をいたしました。失業者の激増、それから人口の流出によりまして、過疎化の一途をたどってまいりましたのでございます。その結果、地域経済は沈滞をし、人心の荒廃を産み出したわけでございます。

私たちはこのような石炭産業壊滅後の後遺症から脱却をめざし、第2次川崎町総合計画によりまして、「ふるさとを愛し、ふれあいのある町づくり」を将来像といたしまして、「健康で住みよい町づくり、豊かな心を育てる教育文化の町づくり」を基本目的と定め、町民と一体となって地域の活性化・新しいまちづくりに向けての鋭意・努力をいたしておるところでございます。

具体的に主な取り組みといたしましては、まず、ソフト面で昭和62年、人づくり・町づくり推進委員会を設置いたしました。町議会や行政区長会のほか、約30団体ほどで構成をし、新しい町づくりは町民一人一人が意識を喚起して、あいさつ活動・美化活動・体力づくり活動、この3つの活動を柱といたしまして、人づくり・町づくり運動を展開中でございます。この運動も7年を経過をいたしまして、徐々に町民に浸透をいたしてまいりました。あいさつやスポーツを通じて、町民の間に心のつながりが広がり、自分たちが住

む町をきれいにしようと、空き缶拾いなどの清掃活動や花いっぱい運動などで町民のボランティア活動も根付いてきたところでございます。

また、このような活動や地域のリーダー、人材の育成を図るために、平成3年には5,000万円を人づくり資金として蓄積をいたしました。その利子運用益で活動の支援をしているところでございます。

次にハード面におきましては、炭鉱閉山後、年々老朽化していく炭坑住宅が約2,000戸ございます。これを定住促進のためにも、また当該地域の住環境整備を急ぐためにも改善をしていく必要があったのでございます。この炭鉱住宅地区改良事業は、昭和45年から現在まで1,250戸の改良住宅を建設したところでございます。そのうち最大大手でありました三井炭鉱の改良住宅事業は約120億円、建設戸数にいたしまして508戸を、昭和59年から平成10年までの15カ年で実施を継続しているところでございます。町にとっては大変大きい事業でございます。住宅といたしましては、平屋建てを取り入れた斬新なモデル住宅でございます。県内外からの多くの視察が来町しているところでございます。

また、地域住民の医療体制の中核を担う町立病院は昭和28年に建てられた木造の建物で、老朽化が著しく、近代的な医療機器の導入や今後の使用に耐えない状況でありました。これを平成5年に約20億円を投資をいたしまして移転・改築を完了し、近代的な医療政策施設として生まれ変わったのでございます。

次に、教育施設の改善についての取り組みでございます。町には町立の小学校6校・中学校3校のうち、小学校1校を残してすべてが改築が完了したところであります。1校残されておりましたが、これも本年、約4億円をかけて改築に着工いたしましたのでございます。また、かねてから町民の要望が強かった図書館の建設については、平成7年、8年、この2カ年で約5億円をかけて建設を計画をしているところでございます。

次に、観光開発の取り組みについては、町の南部に豊かな自然に恵まれた風光明媚な安真木地区というところがございます。雪舟さんゆかりの地として、国の名勝庭園に指定をされております藤江氏魚楽園もこの地でございます。昨年サミット開催地の庭園でございます。春の新緑、夏の青葉、秋の紅葉、冬は雪景色、四季を通じて見応えのある、素晴らしい庭園でございます。町内はもとより、県内外から多くの人に親しまれているところでございますが、サミットのご縁を持ちまして、参加市町の皆さんにも訪れていただきました。年間約8万程度の観光客が訪れるようになりました。

この安真木地区に平成元年から誘致をいたしました英彦山湯～遊～共和国、これはラジウム鉱泉を利用したレジャー宿泊施設で、年間20万人の利用客がでございます。ゴルフ場は福岡フェザントカントリークラブ、それからまた安産の神様で有名な淡島神社、そして町内最高峰の戸谷岳周辺には既存のオーナー制のリング園、さらには平成2年度からキャンプ場や研修施設を設置いたしました森林自然公園を建設をいたしておるところでございます。平成8年には完成が予定されております。このように安真木地区の観光資源を整備

し、結びつけて観光ルートを作っているところでございます。多くの観光客に訪れていた
だこうと、観光開発業に取り組んでいるところでございます。

以上、主な取り組みについてかい摘んで発表をいたしました。今後、町民と一体となっ
て町の活性化をはかるとともに、地域の特性を活かしながら個性ある町づくりに挑戦し続
けたいと思っている次第であります。皆様の参考になる取り組みはございませんが、実情
を発表させていただきました。以上が川崎町の発表でございます。(拍手)

進行(大野町長、三浦寛喜)

大変ありがとうございました。

続きまして、第1回のサミットを開催していただきました、このサミットの生みの親で
もあります総社市さんをお願いを申し上げます。

岡山県総社市・矢吹晋助役

失礼いたします。おはようございます。昨日から第5回のサミットに招待いただきまし
て、いろいろ沈墮の滝の視察とか催しをしていただきまして、本当にありがとうございました。
市長が参る予定でございましたが、代わりまして私、助役でございますが、総社
市での雪舟を通じてのまちづくりの取り組み状況を簡単にご報告させていただきます。

本市はご承知のように、雪舟さんが生まれまして、井山の宝福寺というお寺で小僧時代
を修業なさったところでございます。宝福寺は修行を怠って、和尚さんに縛られて、涙で
鼠を描いたと、こういうお話で有名なところでございます。

平成2年の10月に第1回の雪舟サミットを開催いたしまして、今回で5回目ござい
ます。サミットがこのように大きな盛り上がりを見せまして、ネットワークを形成したこ
とにつきましては、大変嬉しく存じているところでございます。市民の交流もますます活
発になっておるところでございまして、真っ先に取り組みしたのは、総社市の子供会連
合会が平成3年の5月にミステリー列車をしたてまして、益田市さんを訪問させていただ
いたことです。この行事は、毎年5月にゆかりの地各地を訪ねさせていただいております。
また、総社市の文化振興財団では、平成3年の8月に雪舟足跡めぐりツアーを実施いたし
まして、毎年ゆかりの地を訪問して、現地で郷土史家などの解説をお願いしておるこ
ろでございます。昨年は山口市の大内文化の関係の方がバスでみえられました。今年は川崎
町の魚樂園、そしてここ、大野町の沈墮の滝を文化振興財団で訪れております。

雪舟さんにちなみましては雪舟名刺を作成したり、テレホンカードを作成いたしてお
りますし、雪舟さんの名刺は民間企業でも使っていただいております、PRに一役買って
おるところでございます。

市民の間にも雪舟さんは徐々に浸透してきております。市内で2つありますライオンズ
クラブの1つには「雪舟ライオンズクラブ」という名称を付けていらっしゃるようでござ
います。また8月の市民まつりは、毎年「雪舟フェスタ」と銘打ってやっております、

踊りと花火で定着いたしまして、年々盛んになっておるところでございます。

本市ではもっともっと市民に雪舟さんを通じての交流を深めていただこうと、雪舟ゆかりの地の交流促進事業補助金というのを制定いたしました。ゆかりの地で宿泊をともなう交流をした市民には、50人を限度に1人5,000円を助成をいたしておるところでございます。地域おこしということでございますが、地域おこしの一環といたしまして、私どものところでは平成2年から地域住民の町づくりをする仕掛けをしていただき、つまり「仕掛人塾」を開催をいたしております。本年ですでに5回を数えておるところでございます。毎年十余名の塾生が巣立っております、それぞれのボランティア精神を発揮していただきまして、地域おこしをやっていただいておりますのが実情でございます。

事業といたしましては、神が辻プラザにおきます子供さんを主体とした鬼が辻の行事、あるいはこの夏には総社宮での「力石」の行事、これは本当に暑うございましたが、大勢ご参加いただきました。それから、桃太郎伝説でございます鬼ノ城を出発をいたしまして、岡山の方へ至るうらじゃの行事も今年から発足をいたしておるところでございます。今後ともそういう仕掛人塾につきましては、非常に効果がございまして、反省会もいたしておるようでございますが、非常に好評を得ておりますので、続けてまいりたいと斯様に存じておるところでございます。

本市は昨日も申し上げましたように、市制施行の40周年を迎えまして、記念行事を展開をいたしております。その1つといたしましては、雪舟水墨画大賞の制定事業を行うべく現在準備中でございます。また、40周年の記念事業の1つといたしまして雪舟さんの誕生の地の整備を行いまして、順次「雪舟記念公園」として整備をしてみたい。そこには雪舟さんの像も建てたいと、斯様に存じまして準備をしておるところでございます。

各雑誌等で「雪舟誕生の地」として総社をPRしていただいておりますおかげをもちまして、最近では新聞等でも雪舟の話題が出ましたならば、雪舟は備中の国赤浜、それに括弧書きがつくようになりまして、現在の岡山県総社市で生まれた、というような注を付けていただいております。非常にありがたいことに存じております。

雪舟さんが少年期を過ごしました先ほどの宝福寺につきましては、これから紅葉が一斉に色づく時期でございます、最も美しい季節を迎えるわけでございます。宝福寺では夏の座禅が有名でございますし、秋には盛大な茶会が催されておるところでございます。また、改修中ございました私たちども市民のシンボルでございます備中国分寺の五重塔につきましても、平成の大修理がこの2月に完成をいたしました。約3億5,600万円をかけたの事業でございますが、また素晴らしい景観を見せておるところでございます、ぜひひとつ、多くの観光客に御来総をいただきたい、斯様に存じておるところでございます。

そのほか、昨日も申し上げましたが、昨年の4月に開学いたしました県立大学でございます。これは保健福祉学部、情報工学部、デザイン学部、3学部あるわけでございます、併せて県立の短期大学部も併設をいたしております。それは健康福祉学科でございます、

この3月には就職の時期を迎え、そろそろ若い人が巣立っていくと、こういう状況でございます。大学のある、非常に活気のある町としてこれから栄えていかなくてはいかん、斯様に存じております。

よそからおいでになった人は、総社は非常に自然に恵まれて環境がよい、そのうえ岡山市などの拠点都市にも近いということを言っていたいております。事業といたしましては、公園の整備あるいは町づくりのための区画整理事業、あるいは上下水道、あるいは幹線道路網、こういうものの都市基盤の整備に力を入れております。さらに農業基盤整備といたしましても圃場整備、あるいは農業集落排水事業、こういうものにも積極的に取り組んでいるわけでございます、おかげさまを持ちまして人口もだんだん増えている、こういう状況でございます。

また、雪舟さんが総社で子供時代を過ごしたということで、生徒も偉大な人になっていただくように、小・中学校の教育設備につきましても力を入れておるところでございます。これからはご承知の高齢化社会、あるいは少子化社会というものを迎える時代になってまいりました。私どもも老人保健福祉計画を立てまして、健康と安心できます、希望の持てる21世紀へ向けての都市づくりがこれからの大きな課題であろうかと思っております。

地方分権の時代を迎えまして、本市の特色を生かした町づくりをこれから行ってまいりたい、斯様に存じておりますので、どうぞよろしく願いたいと思っております。

ありがとうございました。(拍手)

司会(後藤大野町企画室長)

大変どうもありがとうございました。

それでは第2回のサミットを開催していただきました、益田市さんをお願いを申し上げます。

進行

大変ありがとうございました。それでは第2回雪舟サミットを開催していただきました益田市さんをお願いいたします。

島根県益田市・渋谷義人市長

皆さん、おはようございます。益田市長の渋谷でございます。こと改めて皆さん方に私どもの益田市の町づくり村づくりにつきまして、申し上げるような際だったことはございませんが、今回は雪舟サミットでございますので、私の益田市で雪舟さんに関わる事柄について最初に申し上げたいと思っております。

私の方には「雪舟顕彰会」という民間の素晴らしい熱心な方々の会がございまして、今日も会長さん以下ご出席されておられますが、最初に「雪舟顕彰会」というものが結成されたのが、その当時は益田町でございましたけれども、大正15年のようでございます。

その後「雪舟顕彰会」に雪舟さんの流れを組む多くの日本中の素晴らしい画家の方々の発起人名簿というものが発見され、60有余名の素晴らしい画家の方々のお名前を発見することが出来ました。そのルーツをたどりながらただ今現在までに23名の方々の消息を訪ねることが出来たようでございまして、お亡くなりになった方々も相当あるようでございますが、その一人一人の先生にお会いをいたしましてご賛同を得ながら「雪舟記念館」というのを作りました。加えて3年ほど前に、そこへひとつ絵のご寄贈を願えないだろうかというような厚かましきお願いを申し上げましたのも、雪舟さんを偲ぶ意味からでございまして、大変快く承諾をしていただきまして、ただ今までに13点の絵をいただきました。大変高価なものでございますけれども「ただでよろしい」(笑)ということで雪舟記念館の方に保管しを、陳列しているような次第でございます。

そういう意味で、私自身も市長に就任いたしまして以来、この「歴史と文化の漂うまちづくり」という素朴なテーマを掲げている所以というものは、昨日も申し上げましたように、万葉の歌人・人麻呂がこよなく愛して住んだ益田であり、また画聖・雪舟が素晴らしく喜んで愛して住んだ町であるとするならば、その当時のルーツを探る必要があります。素晴らしいところであったから、それらの大文化人が我が益田に住んでいただいたと思う次第です。いま非常に現代的な漂いを見せておりますが、ともすれば人口がやや減りつつあるようなのが益田市の実態でございます。

私の両方には山口の市長さん、あるいは総社の助役さんがおいででございますが、この両市は1,000名弱の人口が増えているようでございます。サミットに関わります3市の中で益田市は、ちょっとどうも勢いがなさ過ぎるような状況でございます。そこらもやはり、私の中ではただ今、くどいようでございますが、雪舟さんや人麻呂さんがこよなく愛して住んだという素晴らしい町がどんな、過去に町であったのか。そこら辺りを一生懸命探し当てることが、人口流失の歯止めになる、政治的に行政的課題ではなかろうかというふうに考えているところでございます。

そうした意味で、昨日も佐々木先生が一生懸命、雪舟サミットにも関わらず、人麻呂のルーツについて益田のことに触れていただきまして、非常に涙が出るような気持ちでございましたが、ただ今梅原猛先生が日本の一流の大学の教授陣を取りそろえられまして、人麻呂のルーツを学術的に探っています。いわゆる地質学的な学術面からすれば、花粉が何千年も化石として残るようなものでございまして、そういうルーツから訪ねるために、人麻呂の亡くなったところへ学術的な調査を行うため、調査団が入りまして、しだいに終了する状況になりつつあります。これはだいたい1冊の本として出発されるような運びになっているようでございまして、7人の大学の先生方に担当していただきました。

そういう古いことは、それといたしまして、大変また新しいことも我が益田市に到来いたしました。と申し上げますのは昨年7月に、この田舎の古びたところに飛行場が開港してくれました。益田市は高速交通ネットワークの中で一人取り残されていた次第でございまして、何としても空港設置をしてほしいとお願いを続けまして、20有余年間の歳月を

費やしまして、ようやく飛行場が完成いたしました。その飛行場は率直に申し上げまして、最初に公園を作って、そこに滑走路を作ったというような素晴らしい景観を備えた飛行場である関係から、大変私どもの地域で名所になってまいりました。で、雪舟さん以上の名所になったような感じがいたしております。

そういうように、石見空港も大変私としてはそういう「歴史と文化の漂う町」を目指しながらも、やはり近代のそうした石見空港という高速交通網が整備されて、東京も大阪も1時間から1時間半で行かれるようなところになってまいりましたが、やはり私はこの東京や大阪から近くなったというような考え方をいささか飛躍させまして、益田は世界と近くなったというふうに受けとめることが、益田を飛躍・発展させる要因ではなかろうかと考えます。こういう意味から、何はともあれ空港を利用した国際交流ということに力点を置くべきであろうという事柄から、国際交流の一番大事なことは少年の時代から諸外国に行ってみ聞を広めることが一番村づくりのため、町づくりのためには人づくりこそ大切な事柄であろうと思ひまして、そういう国際人たりうるような人づくりを作らなくてはいけないということでありませう。

中国の寧波市がありますが、ここには天童寺という寺がございまして、そこで雪舟さんが500数十年前に修行されたというご縁から、友好親善の都市協定を結びまして、交流を進めまして、サッカーだとか、ねえ、あの寧波の中学生が益田に来て、ほのぼのと試合をする。そしたら、また益田の中学生がまたチームを組んで寧波に今年の夏行ってまいりまして、試合をして、全敗して帰ったという（笑）報告を私にしておりましたが、そういう具合に、私はやはりそれと同時に、一般市民の皆さんにもそういう国際的な交流を深めていきたいという意味から、石見空港をチャーター便で飛び立ちまして、200数十名の方々が今年寧波にチャーター便で、寧波空港に降りられまして、大変な歓迎を受けたという。これもまた雪舟さんが取り持っていたいただいた縁であろうというふうに受け止めて、非常に喜んでおるところでございます。

さて、いろいろと申し上げましたが、時間的な制約もございませうが、もう一つ私の方で特徴的なものがございませうが、420ヘクタールに渡ります国営総合農地開発地域というのがございませう。これは山を築き均らした畑でございまして、高津川という川から畑地灌漑用水を引いておる素晴らしい農地でございませう。今後の農業は、やはり水を度外視した農業はないようございませうので、そこらの意味から、やはり私の市の一代基幹産業はやはり農業でございませう。

そうした意味から、石見空港をひとつの活性化の起爆剤という力点に置きながら、この国営総合農地開発事業地を一代農業公園たらしめてやろうと。これが私のお願いでございまして、そういう意味からやはり今後の農業は科学農業をしなくてははいけません。遺伝子組み替え技術だとかいうような、いろいろな農業の分野も非常に技術的に成長してまいりました。そういう意味から、ひとつ科学技術を駆使した、科学技術を駆使した農業の体系づくり、施設づくりというものにも挑むべきであろうというので、国際農業サイエンスポ

リス構想というのを打ち立てまして、逐次に計画的にそういう方向に向かった方向付けをしていこうということにいたしておる次第でございます。

さて、どの市長さんも町長さんも考えておられることの中に、大変高齢化社会ということになってまいりました。私の市も及ばずながら5人に1人は65歳以上の老人の方ということでございまして、これを何とかしても対応しなくてはいけないという意味から、平成6年、7年の2カ年継続時行で約10億円を投じまして老人保健施設の建設にただ今着手しておるような次第でございまして、平成8年の4月には供用開始をしていこうというような事柄にいたしておるところでございます。

そういう意味から、最後になりましたが、来月私のところへ天皇・皇后両陛下がおいでになります。といいますのは、来月の19日であったと思いますが「第14回全国豊かな海づくり大会」が山口県の長門市で開かれるようでございます。そこへ天皇・皇后両陛下がおいでになると。そのついでといっちは何でございますが、17日の日に私の出身地であるところに天皇・皇后両陛下がおいでになります。これは昭和60年に農林水産祭で「豊かな村づくり部門」という部門表彰があり、私の出身地の益田市の飯田町というところが部門賞で天皇賞を受賞した集落でございます。この賞は、昭和天皇からいただいたのでございますが、ただ今の天皇陛下が昭和天皇が授けられたところを一度見てみたいというような事柄からおいでになるようでございますので、いささか私も緊張をしておるような状況でございます。

その、おいでになりますところの特産は、今一生懸命作っておりますが、米を作るなどいう時代に合わせて、米に代わる特産物ということで、アムスメロンを栽培しております。ざっと益田市のアムスメロンの栽培出荷総額は4億円程度までになってまいりました。そのアムスメロンの発祥の地が、天皇がおいでになります飯田町の農業ということで、ここにはお嫁さんも、農業後継者も、全部差し揃っております。どういうわけか知りませんが、一切問題がないようございまして、大変一生懸命農業に取り組んでおるようなところでございます。

以上、甚だ駆け足で申し上げましておわかりにくい点があったであろうかと思います。最後になりましたが、女性の声を大いに聞き入れた政策をすべきであろうというところから、今年から女性懇話会というのを設置いたしまして「これはこうして、こうして、こうして」というような任命をするのでなしに、公募いたしまして、名乗り出てくださった方を全部懇話会の構成員にいたしました。そしてあらゆる角度から、商業の分野、農業の分野、あるいは水産業の分野、あるいはまた主婦の立場から、あるいはサラリーマンの立場からの、女性の声を益田市政に反映していこうというのが狙いでございます。

大変この取り留めのないおしゃべりでございましたが、以上を持ちましてわが町の紹介に代えさせていただきます。ご清聴ありがとうございました。(拍手)

進行

大変ありがとうございました。

それでは、第3回サミットを開催していただきました、山口市さんをお願いいたします。

山口県山口市・佐内正治市長

山口市長の佐内でございます。今回でこのサミット会議も5回目を迎えるわけですが、このように滝の音を聞きながら、大自然の中で会議をするのは初めてのような気がいたしております。その昔、雪舟もこの豊かな自然の中で沈湮の滝を見ながら水墨画を描いたであろうということを思いますと、誠に感慨深いものがございます。

さて、本日は「個性あるまちづくりへの挑戦」というテーマをいただいておりますけれども、昨日の佐々木均太郎先生のお話の中で、この個性あるまちづくりのポイントといたしますか、キーワードといたしますか、そういったものをお聞きしたような感じがいたします。「地域の核となる文化を掘り起こせ。そしてこれを広げていけ」というようなお話でございましたが、確かにおっしゃったとおりであると思っております。本日は山口市においての、個人的なまちづくりへの取り組みに対する基本的な考え方を、具体的な事例に基づきまして、ごくかい摘んでお話をしてみたいと思っております。

山口市の印象につきまして、住んでいる方や、あるいは観光などで来られた方に質問をいたしますと、多くの方が空気おいしいとか、あるいは緑がたくさんあってきれいとか、本市が持つ豊かな自然に関してのものをあげられる方が大変多いと思っております。山口市は県都でございますけれども、多くの自然が壊れずに残っておりますので、これらに好感を持っていただいて大変嬉しいとは思っておりますが、しかし、必ずしもこれで喜んでばかりはおられないというふうに思っております。

好感が持たれておるこの豊かな自然は、大都市からみますと、山口市のひとつの個性として位置づけることが出来るかも知れませんが、豊かな自然を残しております本市のような小都市からみますと、この自然も山口市の個性というよりは、まちの特徴として分類をされるのではなからうかというふうに思います。特徴として位置づけますと、この良さだけでは個性は生まれませんし、感じることもできないと思っております。人間でも目が青くて美人であるとか、あるいは鼻が高くてかっこいいという外部的な特徴ばかりで、これを売り物にして前面に出しましても、最初は好感を持たれるかも知れませんが、そのうちに飽きられてしまうと思っております。

これはまちづくりにも同様ではなからうかというふうに思っております。まちづくりの視点が外から内へと向かっている中で、これからは住んでいる人である、市民にまちの魅力と誇りが感じられるような施策を展開していくことが重要だろうというふうに思います。先ほど各首長さんからもいろいろなお話ございましたが、やはり市民に、あるいは住民に誇りを持ってもらうということが大切であろうと思っておりますが、豊かな自然をはじめとした生まれなからの素晴らしい素材に満足し、それに頼ってまちづくりを進めるのではなくて、その素材を大切にしながら、山口市らしい化粧をしていく中で、山口市しか持ってい

ない性格である生活文化、あるいは伝統文化など、様々な文化を活かしてまちを作っていくことこそが、私たちが進めていくまちづくりであると思っております。

そのような認識に立ちますと、他のまちにはない、個性的なまちづくりに挑戦するためには、佐々木先生のお話にございましたように、まちが持つ様々な文化を活かして、各市町の核なるものを活かしていくということが非常に大切であろうというふうに思っております。

具体的に本市におきまして進めております個性あるまちづくりへの挑戦事例といたしまして、まず、今年2月にオープンいたしました中原中也記念館をご紹介いたしたいと存じます。中原中也は昨日パネルで会場に写真も提示させていただきましたが、温泉地でございます湯田温泉に生まれた日本を代表する近代詩人でございます、30歳で亡くなるまで数多くの詩を遺しております。その詩は彼の死後、年とともに真価を高めておりまして、近年では若い方、特に女性に人気がございます。

この記念館は、本市が生んだ中原中也の詩の世界に触れていただきますとともに、中也が愛したふるさと・山口をよく知ってもらおうということから、火事で焼失いたしました中原家の跡に平成4年、5年の2カ年で建設いたしました。記念館は中也の遺稿や遺品、写真、資料等の展示に加えまして、詩の世界を映像や音響で演出しておりまして、この建物自身も全国から設計コンペをいたしまして、460件の応募の中から設計を選んだものでございます。来館者もオープン以来5万人を数えようというところまできております。今日ごろ5万人に達するのではなかろうかというふうに思いますが、来館者をお願いいたしましてアンケートをとってみますと、約7割の方が市外から、しかも県外からいらっしやいまして、本市が中原中也のふるさと・山口として広く地域発信をしているものと考えております。また中也に関連いたしまして、来年度から詩の文学賞でございます中原中也賞を創設いたしまして、広く全国から詩を募集していこうと考えておるところでございます。

それからもう一つ、平成11年の完成を目指しております文化交流プラザについて申し上げたいと思います。この施設は昨日もちょうと申し上げましたが、山口市の中心部の約29ヘクタールを学習・文化機能、情報機能、交流機能を備えました、そして個性的な市民文化を育てるといことも含めまして、この情報文化都市基本計画ということ昨日申しておりますが、その中の一施設としてこれを設置しようというふうに考えているものでございまして、来年の3月に移転いたします県立の女子高校跡地に建設をしようとするものでございます。

昨年度川崎町さんでもご報告いたしたところでございますけれども、先ほど申し上げましたような情報文化都市基本計画の中のひとつのシンボリックな建物として、この拠点施設を位置づけておるものでございます。施設は現在具体的に構想を練っているところですが、本格的なコンサートホール、演劇ホール、映像メディア、シネマホール、図書館等の機能を持たせたいというふうに考えております。これらは若い人しがっているものでござい

すし、施設が完成いたしましたら若い人が楽しめるようなソフト展開をしていかなければならないというふうに考えておるところでございます。

最後になりましたが、雪舟を含めた山口の伝統的な文化を活かした施策を1、2個紹介をいたしたいと思います。ご案内のように、本市は室町時代に栄華を極めました大内文化に関連いたしました歴史的な文化資源が多数残っておりまして、今NHKの大河ドラマ「花の乱」の中に大内政弘が出ておりますが、その大内政弘の時代が、一番この大内文化の花開いた時代でございます。

この大内文化を活用したまちづくりをしたいということから、ただ今「大内文化まちづくり懇話会」というのを設置いたしまして、具体的にどういう事業をやっていくか、あるいはこの特徴ある、個性あるまちづくりのために、大内文化をどういうふうに活かしていくかというようなことを検討いたしておりますが、雪舟に関しましても、本市は雪舟だけを取り上げるのではなくて、大内文化の一部門というような立場で雪舟を取り上げているところでございます。

その中で、昨年から実施しております「山口世界音楽祭」をご紹介したいと存じます。これはフランシスコ・サビエルが大内氏に西洋楽器を献上いたしましたことや、1552年に日本では初めて山口でミサが開かれたというような記録から、山口こそ西洋音楽発祥の地であるという認識の下に実施しておるものでございまして、毎年特定の国のテーマに内外の著名な音楽家を招へいしております。今年は日本をテーマといたしまして四日間に渡りまして開催いたしました。特に最後の日には、県内の芸術家を中心として、オリジナルオペラ「我が愛せしジパング」というのを開催いたしました。私も出演をさせていただいたんですけども、大変好評で多数のご来場をいただきまして、盛況裡に終えることができたところでございます。今後もこのようなソフト事業を積極的に進めてまいりたいと考えておるところでございます。

まだまだご紹介をいたしたい事業はたくさんございますが、時間の関係で以上をもって終わりたいと思いますが、いずれにいたしましても冒頭に申し上げましたように、この山口市の文化を最大限に生かしまして、市民が地域に誇りを持ち、そして市民も来訪者もまちを魅力あるものと感じられるような個性あるまちづくりを今後も積極的に進めてまいりたいと考えておるところでございます。そして、多数の方が山口市の印象を素材ではなく性格から良さを感じていただければ、私どもも大変喜ばしいことと考えておるところでございます。

以上で私の報告を終わらせていただきます。ありがとうございました。(拍手)

進行

大変どうもありがとうございました。

それでは、次回開催予定地でもあります芳井町さんをお願いいたします。

岡山県芳井町・佐藤孝治町長

ご紹介賜りました、次回、次期開催地の岡山県の西の端っこにありますところの後月郡・芳井の町長の佐藤でございます。今回は大野町さんの方から心温まる歓迎を受けまして、大変恐縮に存じております。

先ほど三浦町長さんの方から「前の方に席が空いとるから、ぜひひとつ前の方へ」というふうなお言葉がありますが、どうも遠慮されておるようでございます。私今ここで拝見いたしますのに、女性の方が9人立っておられます。女性の方だけひとつ、前にひとつお越しただければ、私は幸いに存じます。(拍手。女性たちが前の席に座る)

さて、先程来、個性あるまちづくりということで市長さん・町長さんの方からお話が出まして、立派な計画があるんだな、ということをお聞かせ願ったところでございます。素直な大野町の女性の方、大変私、大好きであります。

さて、選挙で戦う者は誰しも口にいたしておりますのが、福祉の充実ということであろうと思います。私も去る5月1日、第2期目の町長として町民の多くの方々からご支援を賜って町長の席をいただいております。昨日も、人口増ということで私どもの議長やら副議長、そして議員の方々から「何とか人口を増やせ」というふうなお話は十分承って、住宅に力を注いでおるところでございますが、町長は住宅増だけ考えておるかといひますと、いやいや、なかなかそうではございません。

私の方の人口が12,356人おりましたものが、今日現在では6,800人ということでございまして、所帯にいたしまして1,990所帯、その中で驚くなかれ、212所帯の方が独り所帯でございます。独りぐらしの老人が、安心して暮らせるように緊急通報装置の給付や貸与を行っております。

と同時に、先ほど益田の市長さんの方から高齢化率についてお話がございましたが、私もその高齢化の地におるものでございまして、今日現在28%が高齢化ということでございまして、この対策にはヘルパー、家庭奉仕員を今日現在4名入れております。それと保健婦を3名入れておりますが、これにはまだまだひとつ足りないということから、増やしていく方針であります。

さて人口増につきましては、先ほど棒術の実演を見せていただきましたが、「後継者はどうでしょうか」と言ったら「いやあ、それには困っとるんだ」というふうなことでございましたが、農業後継者にしろ、商業後継者にしろ、その後継者のないというのが実情でございまして、これに対応といたしましては「生き生き町づくり条例」というものを制定いたしましたして、結婚の、いわゆる媒酌をしてくださった方には、町では「結婚謝金」、仲人さんへ奨励金を出す制度、そして結婚された方には「結婚祝金」も出します。なお、今日現在お父ちゃん、お母ちゃん、若いお二人で厚生省が発表いたしておりますのが1.5人と、いうふうな数字を発表いたしておりますが、わが町では2人以上の方をひとつ出生してくださった方には「出生」いわゆる「出産祝金」も出すことにしております。

それから、中学校、高等学校、大学を卒業されまして、我が芳井町に残っていただくと

いう方には「留町奨励金」というものも出すことにいたしております。それから、海外へ研修にお行きになるという方へは「海外研修助成金」、これも出すことにいたしておるような状況でございます、何とか人口を増やそう、もう、その一点張りで頑張っておるような状況でございます。

さて、雪舟のことを若干申し上げねば「雪舟サミット」の意味がないと思います。今日、私たちと一緒に来ておりますのが「雪舟を語る会」というものを設置いたしておりますが、その中の代表者のお2人、今日ご出席を願っておる状況でございます、実は今年の去る5月の24日に岡山県知事を、我が6,800人の町へ招聘いたしまして、いろいろと悩み事、それから各種団体の方々からご意見を頂戴いたしたところでございます。

その際にも「雪舟を語る会」の会員の方3名ご出席を賜りまして「雪舟を売り出す」ということで、ひとつ知事さんのお力添えを」というような要請もされております。知事曰く「何とかしよう」という回答を得ておりますので、これからひとつ、遅ればせではございますが、芳井町も雪舟を大いに売り出すべく、町長を筆頭に議会の議長さん、副議長さん、ぜひひとつ力を入れてやろうというふうなお気持ちの披瀝をいただいておりますことは、喜びに堪えないことでございます。

さて、次期開催地の芳井町でございますが、大野町長さんの方から「次期開催地の町長あいさつ、ものを言え」というふうなことでございますが、大野町のように町民こそってこの歓迎をしていただくというふうなことが、芳井町ではどうかな、ということをお考えおるところでございますが、さっき車中で、私どもの早川議長曰く「町長、おみやげを早（はや）うちの総務課長はもろうてヘラヘラしよるが、来年は何を出すんな」というふうなお話がございます「議長さん、雪舟のひとつ陶像を、焼物を町長室に飾っとるから、あれを出したらどうだろうか」というような相談をいたしましたら「うん、ええど」と。「しかし町長、あれは重てえから持って帰ってもらうのに困りゃあせんか」というふうにお話もしたところでございますが、来年は大きな雪舟の陶像を、各市町さんの方へお渡しすることを今から お約束しておきます（笑）。来年のことを申し上げますと、鬼が笑うというふうなこともありますけど、もう鬼が笑おうが笑うまいが、それをお持ち帰るような心組みで、力の強い人もこのサミットへ出席していただくようなご配慮を賜りたいと斯様に思うものでございます（笑）。

新しい試みといたしましては、私の方では難病で困っていらっしゃる方が病名のしっかり、はっきりわからないような人も芳井町にたくさんいらっしゃいます。そういう方への援助活動も行っております。これは社会福祉協議会の充実というふうなことで、いろいろ頑張っております。無料貸し出しのベッドであるとか、歩行器であるとか、マットであるとか、いろいろ用意しておりますが、町民には受けておるようでございます。社会福祉協議会の充実を当町にも頑張っておられるようでございますが、いろんな貸し出し用の機械、そして設備等もあろうと思いますが、また後ほど、私、三浦町長さんの方からお聞かせ願いまして、不足するものはひとつ芳井町でもこれを整えておけば、町民の皆様方に喜んで

いただけるものではないかなというふうに考えておるところでございます。

先日の9月の定例議会におきまして、雪舟を中心といたしましたコミュニティ・カレッジ、雪舟に関するお方をお呼びいたしまして、いろいろ講演をしていただくというふうなことで、これに約100万円の講師報奨金やら、会場の整理費やいうことを目的といたしまして、予算議決を願っておるところでございます。

昨日も申し上げましたが、芳井町には200人程度の方の入る会場しかございませんので、来年は600～700人入れる施設を、今からかかっておりますので、その節は、今日後ろの方にお立ちになっておる方のないようにと思ひまして、立派なものを予定しておりますので、大野町の皆さん方もぜひお繰り合わせご出席を賜りますようお願いを申し上げます。拙いお話でございましたが、私の発表を終わらせていただきます。

皆さん、ご清聴、誠にありがとうございました。(拍手)

大分県大野町・三浦寛喜町長

大変ありがとうございました。来年のサミットを非常に楽しみにいたしておるところでございます。それでは最後になりましたが、大野町の三浦でございます、ご報告を申し上げたいと思います。

大野町のはじまりは、明治40年に5つの村が合併をいたしまして、東大野村として発足いたしました。さらに昭和3年に町政を施行して、現在の大野町となったところでございます。町の北部の山岳地帯をのぞいて、南側に向かって流れる大野川の中流地域として拓けた県下有数の畑地帯でございます。

そして、県下でも有数の遺跡が集中する考古学研究のメッカともなっておるところであります。大野原の大地は干ばつに弱い土地であったのでありますが、20年前から畑地干害事業に取り組んでまいりました。360万トンの師田原ダムを建設したおかげで、今年のような干ばつの年でもほとんど被害を受けずに、豊作といってもいいぐらいに実りの秋を迎えたところでございます。

一方また、この大地に3年前農道空港が建設されまして、豊肥地区の12市町村と一緒にになりまして、施設園芸を中心にニューフライト産品の出荷を東京市場の方に行っておるところであります。また、葉たばこや路地野菜、ピーマン、小ねぎ、それから水耕栽培、三つ葉や生シイタケなど、今までの米麦農業からこうした小物野菜など、一大供給基地としての重要な役割を果たしているところでもあります。

ちなみに昨日「雪舟サミット」の開会の初日の日に、ちょうど葉たばこの売り上げの終わったときでございまして、その時の集計が18億4,225万円ということになりました。それで1,000万円以上をお取りになった方が82戸ということでありまして、一昨年に続く大きな収穫であったわけでございます。しかしながら、過疎化や高齢化は依然として進んでおりまして、後継者不足や農地の荒廃等、諸問題に対し、今後の農業の対応施策を考えていかなければなりません。そこで今、農業公社の設立に向けてただ今準備中

でございます。

さて、本町の町花はぼたん桜でございますので、5年ほど前からこの町内全域に約5,000本のぼたん桜の植栽をいたしました。従って10年先には、いわゆる自慢の出来る、本当に町花はぼたん桜だなあ、といわれるように、こきぼたん桜で埋もれるようなこの町が出来るのではないかとこれから楽しみに、町民と一緒に育てておるところであります。特に「農道空港とぼたん桜の町づくり」がキャッチフレーズでございます、21世紀の未来の子供たちによりよい、魅力ある大野町をバトンタッチできるようにと願ひまして、豊肥地域の中核となり得るような、広域的な観点に立った“グリーンサテライトタウン・大野”の建設に努めたいと考えておるところでございます。

また、農道空港と隣り合わせに総合運動公園、今日見ていただくわけでございますが、総合運動公園を建設しました。一方また、町民のやすらぎの場としての師田原ダムに「師田原レイクサイドパーク」を建設中もございます。また県民の森には、第三の文化といわれておりますこの「香りの館」が、約50億をかけまして大分県が今建設中でございます。本町といたしましては、これらを総合的に結ぶアクセス道路の整備を早急に完了すべく取り組んでいるところでございます。

そして、町の中心部のこの抜本的な、いわゆる都市計画構想と併せまして、公共下水道や若者向け住宅、そして商店街の活性化。さらには老人福祉計画など総合的な展開をすることといたしておるところでございます。農道空港を起爆剤にいたしまして、私どもは農・工、それから商・観、こういった振興を図るためにも、将来に向かって農道空港の多目的活用として、その他飛行場化への働きかけもいたしておるところでございます。

次に文化面であります、本町は特に今年を記念すべき「文化元年」と位置づけまして、雪舟を柱とした関係6市町との友好と交流の展開と併せて、ゆとり、豊かさ、生きがいをテーマとした住民総参加の水墨画教室などによる雪舟の里づくり事業であります。今までの文化といいますと、どちらかという見る文化、というようなことでありましたが、参加し、そして創り出す文化というものへの取り組みをやろうということでもあります。また幸いに、大野町に800点以上も発見された石野玉 氏の水墨画も地域づくりに活用して参りたいと思っております。

そのためにも来年からは3カ年間、県の一村一文化事業の指定を受けていく考えでございます、雪舟の里づくり事業の具体的な展開を図りたいと、このように考えておるところでございます。

これは例えば、小・中学生から一般までの水墨画の普及はもとより、幅広い、地域を超えた教室の開講とアマチュア作品展、そして水墨画の町・大野町を全国へ情報発信するための全国規模での水墨画シンポジウム。そして水墨画館ですね、館を作って水墨画展の開催、年間を通じました石野玉 作品展の開催、雪舟ゆかりの地や中国の子供たちとの水墨画等の交流と作品展など、大野川、この流域文化の流れの中で、広域的な視点に立った文化のふるさと・大野町への交流人口の増大を図ることが出来ればと願っておるところでござ

ざいます。

そして、町民の一人一人が健康で心のなごむ、活力と潤いとやすらぎのある、物も豊か、心も豊かな町づくりに努力をいたしたいと思いますので、どうぞよろしくお願いを申し上げます。

ありがとうございました。(拍手)

それでは、これまでの報告につきまして市長さん方、町長さん方で何か補足すること、あるいはまたご質問等がございましたら、お出しいただきたいと思いますが、どうぞよろしく願いいたします。

……えー、ないようでしたら、ここで一通り貴重なご報告をいただきましたが、次に今後の交流のあり方、及び共通事業の取り組みにつきましてであります。前回川崎町さんで開催されましたときに、第1回サミットでは、小・中学生の共同学習に雪舟を加えたらどうか、あるいはまたそれから、この修学旅行の行程に雪舟ゆかりの地を入れたらどうか、あるいはまた一般公募による雪舟史跡巡りツアーの実施、そして郷土物産、郷土芸能の交流事業は出来ないか、というようなご提案がございます。第2回サミットでは、広域広報誌や観光・文化財等の資料の交換、雪舟ゆかりの地と中国の都市との姉妹提携の提案が成されております。第3回、第4回のサミットでは、時間の都合によりまして、事務局連絡会議で今後つめさせていただきますというようなことで終わっておるような事情でございます。

以上のような経過をたどってきたわけでございますが、お手元の資料にこれまでの実績を記載してございます。これを見ますと、いくつかの事業をのぞいては皆様方のご協力・ご理解によりまして、ある程度の交流がすでに実施されているようでございます。しかし、提案されているすべての事業がスムーズに行われているわけではございませんので、今後事務局レベルで検討していただきたいと思うのであります。この件につきまして特にご意見がございましたらお願いいたします。

……ないようでしたら、事務局レベルで引き続き検討していただくということでご理解いただけますでしょうか。……ありがとうございました。

それでは、サミットも今回で第5回を迎え、次回の芳井町さんで一巡するわけですが、次に川崎町での第4回サミットにおきまして、今後のサミットのあり方につきまして事務レベルで検討し、本サミットにおいて討議することになっております件について、お手元の資料にありますように、昨年11月の事務局担当者会議におきましてさまざまな課題、提案等が協議されたようでございます。その中で、3点ほど確認がされておりますので、ご検討をいただきたいと思っております。

今後のサミットのあり方についてであります。まず第1点は、一巡するまでは現行とほぼ同じ内容・形態をとるということが第1点です。第2点は、二巡目以降もサミットは毎年開催するが、サミット会議についてはこれまでどおり首長により行い、その他の日程については、これまでより幅広くとらえた住民参加の共通事業を各市町に応じて行うものとする、というのが2点目でございます。第3点は、今後各市町で単独で行われる雪舟に

関する事業についても、計画があった時点で参加する市・町に情報を提供して、事業参加も含めて可能な限り支援を行う。以上の3つの点についてご討議いただきたいと思いますので、よろしくお願い申し上げます。ご承認いただけますでしょうか。(拍手)……はい、異議ないようございまして、ありがとうございました。

ご承認いただきましてありがとうございました。今後のサミットの取り決め事項ということで、取り組んでまいりたいと思います。なお、本サミットにおいてご提案いただきました件につきましては、本年度中に事務局連絡会議を大野町で開かせていただきまして、次回開催地へお渡ししたいと思っておりますので、よろしくご理解を賜りたいと思います。

時間も経過してまいりましたが、ここでサミットに参加されている自治体が雪舟文化を中心に、今後ますます交流と友好が深まりまして、個性的で魅力ある豊かな町づくりが展開されますように、サミット宣言の採択に移りたいと存じます。宣言文を朗読いたしますので、よろしくお願い申し上げます。

それではサミット宣言を朗読いたします。

『動乱の世にあって漂泊しながらも、ひらすら真実を求めて実景を写し、新しい水墨の世界を創造した画聖・雪舟は、我が国絵画史上最も偉大な画家の1人であり、ウィーンの世界平和評議会において文化貢献者10人の中に選ばれている。

ここ大野の地にその雪舟がとりもつゆかりの自治体が相集い、雪舟の偉業を顕彰しつつ、互いの地域づくりについて情報を交換し、自然と友好を深めることは、今後それぞれの個性的で魅力ある、豊かな町づくりを推進するうえで意義深いものと確信する。よって、ここに関係市町が新たな歴史の創出に向けて、各分野にわたって未永く交流事業を進めていくことを宣言する。

平成6年10月28日 第5回雪舟サミット参加自治体交流会議。』以上でございます。(拍手)

ただ今朗読させていただきました宣言文にご異議ないようでしたら、今一度拍手を持って採択させていただければ幸いです。(拍手)

……どうもありがとうございました。

司会(後藤大野町企画室長)

ありがとうございました。続きまして、ここで次期開催地でございます芳井町さんへ、大野町長よりサミット旗をお渡ししたいと存じますので、芳井町長さん、大野町長、よろしくお願い申し上げます。(芳井町長へ、大野町長より旗を渡す。その後拍手)

岡山県芳井町・佐藤孝治町長

議長、もろうたよ。(場内爆笑)

司会(後藤大野町企画室長)

それではここで芳井町長さんより、次回開催地ということで一言ご挨拶がございますの

でよろしくお願いいいたします。

岡山県芳井町・佐藤孝治町長

今回の開催地ということで、サミット旗を皆様方の面前でお受けいたしたところがございます。いただきまして、私、後ろにいるところの、芳井町の早川議長へ「もらったからあぁ」と、こう一言申しましたら「うん！」という立派な返事がまいったようでございます。(場内笑。拍手)

岡山県の芳井町でございます。どうか皆さん、次回はぜひお越しいただきますようお願いをいたしまして、甚だ簡単・措辞でございますが、ご挨拶に代えさせていただきます。どうも皆さん、今日はありがとうございました。

(三浦町長に向かって)町長、今日はありがとうございました。(会場に向かって)皆さん方、来年は芳井町でございますので、ぜひひとつお越し願います。

司会(後藤大野町企画室長)

ありがとうございました。昨日に引き続きまして、ご熱心にご報告、並びに協議をいただきましたことに、心から御礼を申し上げたいと思います。

それでは、2日間の日程をすべて終了いたすことになりました。閉会に当たりまして、大野町教育長・工藤昭悟より閉会のご挨拶を申し上げます。

大野町教育長・工藤昭悟氏

地元の教育長でございます。第5回の「雪舟サミット」が、3市3町の首長さんをはじめ、100名の皆さんのご参加をいただきまして、盛会裡に終了できますことを、地元の1人としてこの上もない喜びと感ずるところでございます。本当に皆さん、どうもありがとうございました。本町は文字どおり過疎の地でございます、これといったおもてなしもできず、不行き届きの点が数多くありましたことを、この席をお借りいたしてお詫びを申し上げたいと思います。

本町は「雪舟サミット」を文化おこし元年と位置づけまして、三浦町長のもと、一生懸命今まで取り組んでまいりました。その間、昨日ごらんになっていただきました、石野玉氏の遺作800点が発掘をされまして、その顕彰会も発足をしたところでございます。

それからこの川のずっと下流に、佐賀関というところがございますが、佐賀関から非常にきれいな若い娘さんがこの沈墮まで上がってきまして、この滝壺に入水をしまして、大きな大蛇になったという、そういう「沈墮物語」が見事に完成をみました。詫間先生のご指導によりまして、昨日これもごらんになっていただきました、小中学生から一般の大人に至るまでの水墨画教室が、月を追うごとに充実をしましてまいりました。そういうことで、大野町にも文化の光が少し射してきたと、そういう段階でございます。

本日はこの滝壺の、この現地で、個性ある町づくりというお話をしていただきましたけ

れども、貴重なご意見やご提言を町おこし、並びに文化おこしの中に十分活かしてまいりたいと考えております。私の町では、8月に「子供フォーラム」を、3市3町から約130名の子供さんたちを招いて行いました。そして、昨日・今日とサミットを行ったわけでございますけど、皆さん方の、本当にあたたかいご協力を得まして終了することを本当に嬉しく、ありがたく思っております。3市2町のますますのご発展とご繁栄を心からお祈りをいたします。

最後になりましたが、大野町の雪舟会の皆さん、南部校区の滝の会の皆さん、それから区長会の実行委員の皆さん、本当にお世話になりました。これをもちまして「第5回雪舟サミット」交流会議のすべてのプログラムを終了いたします。

皆さん、どうもありがとうございました。南部校区の皆さん、本当にどうもありがとうございました。(拍手)

司会(後藤大野町企画室長)

大変ありがとうございました。また、会場にお越しの皆さん、大変ありがとうございました。それでは、これから11時出発の予定でバスの方にお運びをいただきたいと思います。

皆さん、大変ありがとうございました。(郷土芸能がはじまる)

拍手でお送りいたしたいと思います。ありがとうございました。(拍手)